

特別展

創作人形の力展ちから

こどものかたち

さいたま市
岩槻人形博物館

平田郷陽・野口光彦を中心に

人形作家が生み出す こどもの姿

さいたま市岩槻人形博物館は人形を専門とする全国初の公立博物館として、今年2月22日(土)に開館した(本誌3月号で紹介)。開館後すぐに新型コロナウイルスの感染拡大を受けて3月2日(月)に臨時休館となったが、6月2日(火)に再開。今回は、同館初となる特別展である。

10月3日(土)にスタートしたのが「こどものかたち 創作人形の力展」——平田郷陽・野口光彦を中心に——だ。近代を代表する人形作家である平田郷陽と野口光彦の作品を中心に、こどもや親子の姿を捉えた作品32点が展示されている。

同館所蔵の作品のほか、個人から借りた作品もあり、平田郷陽の「抱擁」ちゆうゆう「朝霜」あさしもなどがそれに当たる。生人形のような写実性の高い人形から、抽象的なフォルムまで、あらゆる作風で見る者を楽しませてくれる。こどもや母子の瞬間を切り取るように、日常の場面を作品にする。その

多彩な表現力を堪能できる。

野口光彦は、近代御所人形の創始者と称される作家。三頭身のスタイルと胡粉で仕上げた白い肌という御所人形の伝統技法を用いて、新しい童子を作り上げた。「童心戯笛」は、一瞬動きを止めたような躍動感ある作品。全体のバランスの良さはもちろん、細部に宿る作家の想いを感じることができる。

二人に影響を受けた人形作家は多い。今回の特別展では、岡本玉水、佐野光輝、鈴木賢一の作品も展示。また、埼玉ゆかりの人形作家である綿貫萌春の作品も紹介されている。

会場では、平田郷陽の遺品「権衡図」や「母性愛浮世絵集」「スクラップブック」といった人形制作の参考とした貴重な資料も見ることができ。多くの作品が、ここに来なければ出合えない。さまざまな「かたち」に挑んだ作家の力をこの機会に感じたい。11月23日(月)まで。



- ①平田郷陽はさまざまな資料をもとに人形制作に取り組んでいたことが分かる
- ②会場に設営された撮影場所。InstagramなどのSNSの撮影はここで決まり！



関連イベント情報

●学芸員によるスライドトーク

日程 10/25 (日)、11/3 (火・祝)、21日 (土)

時間 いずれも13時30分～(30分程度)

※申込不要、要観覧券。集合場所は会議室前。

参加人数を制限する場合あり





上) 桃太郎 平田郷陽
昭和時代/さいたま市岩槻人形博物館蔵

左) 抱擁 平田郷陽
昭和41(1966)年/個人蔵



犬乗り 岡本玉水
昭和時代/東玉・人形の博物館蔵



童心戯笛 野口光彦
昭和31(1956)年/さいたま市岩槻人形博物館蔵

11/23
(月・祝)
まで

さいたま市岩槻人形博物館

IWATSUKI NINGYO MUSEUM

〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1 ☎048-749-0222

開館時間/ 9時～17時(入館は閉館時刻の30分前まで)

休館日/ 月曜日※11月23日(月・祝)は開館

観覧料/ 一般500円、高校生・大学生・65歳以上250円、
小学生・中学生150円

※特別展の観覧券で常設展示室もご覧いただけます

交通情報

●電車をご利用の場合

東武アーバンパークライン(野田線)
「岩槻駅」から徒歩約10分

●車をご利用の場合

東北自動車道「岩槻IC」出口から
約5.5km、車で約12分
※駐車場完備